

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立狭山緑陽高等学校)

目指す学校像	生徒の多様な個性をみがき、自立した社会人に育てる二部制総合学科高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒の自律を促進し、安全で安心な学習環境にする 2 生徒の学習意欲を高め、学力と進路意識の向上を図る 3 地域に根ざした開かれた学校づくりを進める
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(月日現在)			学校関係者評価	
年度目標					年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標 (<生>生徒アンケート、<保>保護者アンケート)	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自らを律する等の人間性を育む指導を組織的に行ってきた。今年度は「三ない運動」に代わる新たな交通安全に関する指導要項に基づいた指導を進める。課題は次の2点である。 ①より落ち着いた学習環境をつくる。 ②経験豊かな教職員の指導方法を若い世代の教職員に継承する。	生徒一人一人に対する理解に基づいた生徒指導の推進	①生徒指導部による「始業前の確認」を用いて全教員で指導に当たる。 ②さらにきめ細かい服装・頭髪指導を年次単位で取り組む。	①全教員で「始業前の確認」を用いて指導に当たったか。 ②さらにきめ細かい服装・頭髪指導に年次単位でしっかりと取り組んだか。 ③交通安全に関する指導を推進したか。 ④<生>校則に従った服装や身だしなみをしようと努めた。 ⑤<保>制服等身だしなみを整え、本校生徒としてふさわしい行動を取っている。					
	校内も外履き利用としているが、来校者から校内が綺麗であるという評価を得ている。一方、次の2点が課題である。 ①生徒の校内美化意識を高める。 ②時間割の都合上、限られた時間で行う清掃活動をより効率的にする。	清掃活動の充実	①昨年度に引き続き、毎週木曜日を清掃活動強化日とし、保健管理部が中心となってより一層充実させる。	①保健管理部が中心となり清掃活動強化日の取組を充実させたか。 ②<生>環境美化・清掃にしっかりと取り組んでいる。 ③<保>学習環境が整備され、落ち着いた環境の中で学習に取り組める。					
	教職員と教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーがチームとなり、協働している。一方、多様なニーズに対応した教育機会の提供や配慮、支援をいかに充実させるかということが課題である。	組織的に対応する指導・相談体制の充実	①相談担当で定期的に生徒情報を共有する。 ②教育相談・特別支援教育推進委員会による研修会を充実させる。	①生徒情報共有の取組を進めたか。 ②研修会により、教職員の資質能力の向上を目指したか。 ③<生>中学校の時より、明るく元気に学校に通っている。					
2	来校者から年々良い学校になっていると評価を得ている。昨年度は、新教育課程編成における必修科目を決定した。課題は、次の2点である。 ①経験豊かな教職員の指導方法を若い世代の教職員に継承する。 ②新教育課程について、本校の特色を表す選択科目群を検討し、「豊かな学びで未来を拓く」教育課程編成を目指す。	教育課程の改善に向けた検討の推進	①授業づくり委員会が中心となって選択科目群の検討を進める。 ②教員相互授業観察用紙を用いた各教科による授業公開の取組を進める。 ③新入学生から始まる介護職員初任者研修養成に関する指導を進める。	①選択科目群の検討を進めたか。 ②教員相互授業観察用紙を用いた各教科による授業公開の取組を充実させたか。 ③介護職員初任者研修養成に関する指導を進めたか。 ④<生>本校の授業に満足している。					
	長年蓄積してきた指導の成果として、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」を利用した進路指導や生徒の科目選択に関するガイダンスを確立してきた。また、生徒の学習意欲と進路意識の向上を目指し、図書館や進路資料室の充実に努めている。一方、次の2点が課題である。 ①基礎学力や進路意識を向上させ、より多くの生徒の進路希望を実現させる。 ②自分の進路希望に合った科目選択を生徒がよりスムーズにできるように履修指導を充実させる。	生徒の学習意欲と進路意識の向上	①「総合的な探究の時間」への移行やポートフォリオ、新様式の調査書に関する検討を進める。 ②「高校生のための学びの基礎診断」に関する取組を充実させる。 ③生徒や教職員の図書館、進路資料室利用を促す。 ④自分の進路希望に合った科目選択を生徒がよりスムーズにできるような履修指導の充実を目指す。	①「総合的な探究の時間」への移行やeポートフォリオ、新様式の調査書に関する検討を進めたか。 ②「高校生のための学びの基礎診断」に関する取組を充実させたか。 ③図書館や進路資料室利用を促したか。 ④履修ガイダンスを充実させたか。 ⑤<保>進路説明会・面談など、進路についてのガイダンスやアドバイスが適切に行われている。 ⑥<生>科目選択がスムーズにできるよう、ガイダンス、説明等の履修指導が適切に行われている。					
3	地域ボランティアへの参加や校外清掃活動の取組により、地域に根ざした開かれた学校づくりを進めている。今後も開かれた学校づくりの取組の充実を図る。	開かれた学校づくりの推進	①引き続き、地域と学校の連携・協働を進める。 ②近隣公民館、自治会への広報誌配布を継続する。	①地域と学校の連携・協働を進めたか。 ②近隣公民館、自治会への広報誌配布を継続したか。					
	中学生等への広報活動の形が確立し、本校の特徴や魅力を発信している。今後も本校において高校生活を充実させようという意欲的を持った入学志願者の増加を目指して取組を進める。	生徒募集に関する取組の充実	①説明会・体験入学、中学校訪問、出前授業等を工夫して本校の魅力を伝える。 ②生徒による広報活動について検討を進める。	①説明会・体験入学、中学校訪問、出前授業等を工夫し、本校の魅力を伝えたか。 ②本校への入学志願者を増加させたか。					